

「道の駅」第3ステージの最近の取組

国土交通省 道路局
企画課 評価室
令和6年12月

1. 「道の駅」第3ステージ応援パッケージ
2. 「防災道の駅」の取組
3. 多様な主体との連携

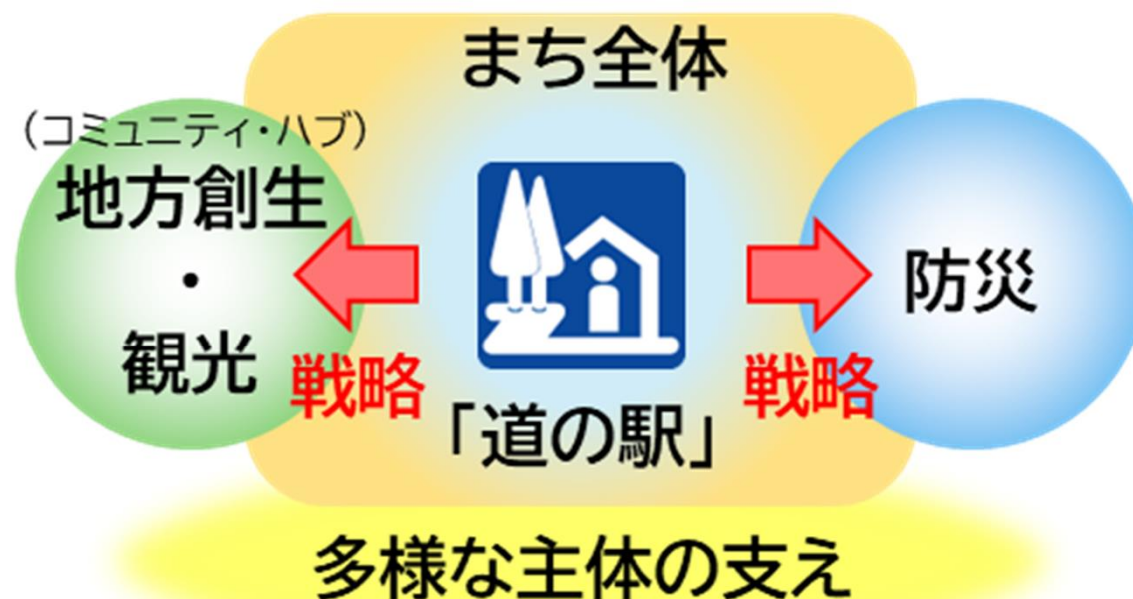
「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

「道の駅」第3ステージとは

「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組

「道の駅」単体からまちぐるみの戦略的な取組へ

- 第3ステージの取組は、「道の駅」単体でなく、まちぐるみで進める必要
- 「まち」の目指すものと、「道の駅」の目指すものが合致している必要
- 戦略的なしかけにより、「まち」と「道の駅」の双方が共通の意志を持って取組を進めることが重要



(概念図の意味)

住民や多様な関係者を含む「まち全体」の視点をもとに、
「まち」と「道の駅」が互いに影響しあい、双方が共通の意志を持って戦略的に取組を実施

「道の駅」第3ステージ応援パッケージの対象「道の駅」の選定要件等(案)

- 第3ステージのポイントである「まちぐるみの戦略的な取組」の実現に向けて取り組む自治体と「道の駅」に対し、関係省庁一丸での支援を推進するための制度を構築

【対象】

- ・ 「道の駅」のリニューアルの中で、第3ステージ施策の推進に取り組む自治体

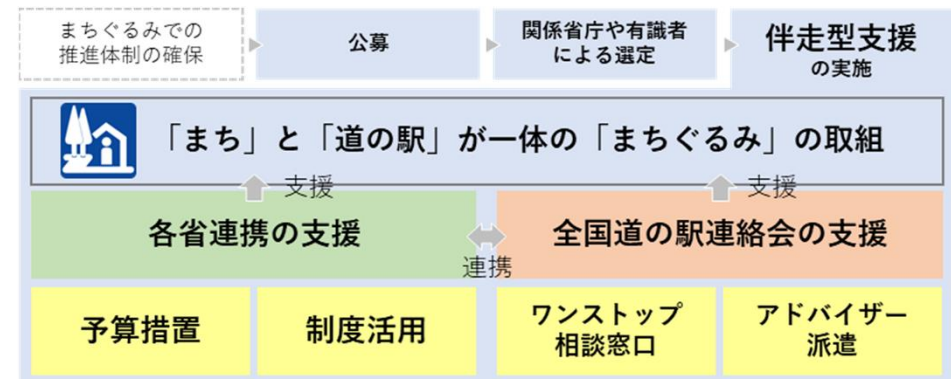
※ 第3ステージ実現のための施設整備や改築等を目的とするものを対象とし、単なる施設改修のみのは対象外

【要件】

- ・ 応募にあたり**首長と駅長の連名**で『(仮称)第3ステージ推進計画』を提出すること
- ・ 当該計画には、以下の内容を記載すること
 - － **まちの目標・目指すべき姿**、および、その中における**「道の駅」の役割**
 - － 想定する**具体的な取組内容**
 - ※ 方向性ではなく具体的な取組を記載
 - － 実現のための**連携体制**
 - ※ 応募時点で体制が整っていること

【支援期間】

- ・ **3年間**



【支援内容】 ※ 各現場の希望に応じ組み合わせ

- ・ 関係省庁や派遣アドバイザーにより以下を実施
 - － 重点的な予算配分
 - － 柔軟な制度活用のノウハウ提供
 - － 行政・「道の駅」・地元による議論のコーディネート
 - － まちと道の駅の共通コンセプト立案
 - － 顧客データ分析
 - － マーケティング手法による経営戦略の提案
 - － 具体的取組への意見・提案

※ 提出された計画のブラッシュアップ

【目的】

- 「道の駅」第3ステージの推進に必要な省庁連携での支援のため、各省庁の支援制度やノウハウの共有を図る。
- 『「道の駅」第3ステージ応援パッケージ』の運用のため、公募要項等の内容の検討や、選定に向けた意見・素案を作成する。

【メンバー】

国土交通省

道路局 企画課 評価室
総合政策局 社会資本整備政策課
総合政策局 地域交通課
国土政策局 地方政策課
都市局 市街地整備課

観光庁

参事官(外客受入担当)
観光地域振興部 観光地域振興課
観光地域振興部 観光資源課
国際観光部 国際観光課

内閣官房

新しい地方経済・生活環境創生本部事務局

内閣府

地方創生推進事務局

こども家庭庁

長官官房参事官(総合政策担当)

総務省

自治行政局 地域政策課

農林水産省

農村振興局 地域整備課
農村振興局 都市農村交流課

環境省

大臣官房 地域脱炭素事業推進課

「道の駅」第3ステージ応援パッケージの対象「道の駅」進め方(案)

本日

- 「道の駅」第3ステージ応援パッケージの対象「道の駅」の選定要件等を確認

12月中

- 募集を開始

年度内目途

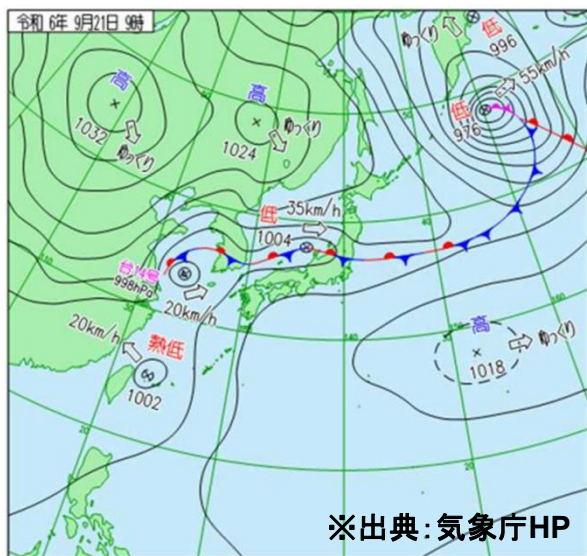
- 「道の駅」第3ステージ応援チーム会議で確認
- 「道の駅」第3ステージ推進委員会で確認

- 対象となる「道の駅」を決定

支援の開始

「防災道の駅」の取組

- 9月21日から22日にかけて、日本海の低気圧や前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定になり石川県能登では記録的な大雨となった。
- 気象庁において、21日9時00分時点で大雨の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域(10~30分先の解析)を確認したことから、21日9時7分に「顕著な大雨に関する石川県気象情報(第1号)」が発表され、浸水害による危険度がさらに高まったことから、21日10時50分には、輪島市、珠洲市、能登町に「大雨特別警報(浸水害)」が発表された。この期間の日最大1時間降水量は輪島で121mm(9月21日)、珠洲で84.5mm(9月21日)、月最大24時間降水量は輪島で412mm(9月21日8時50分から9月22日8時50分まで)、珠洲で315mm(9月21日8時50分から9月22日8時50分まで)となり統計開始以来1位となった。

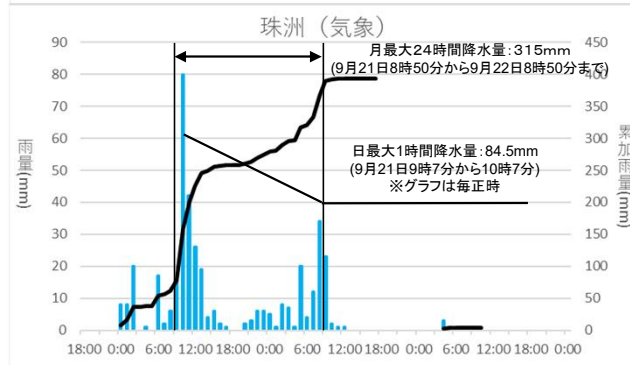
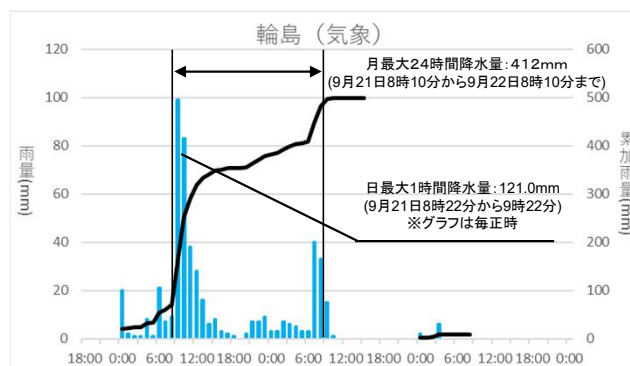


※出典: 気象庁HP

地上天気図 (9月21日09時)

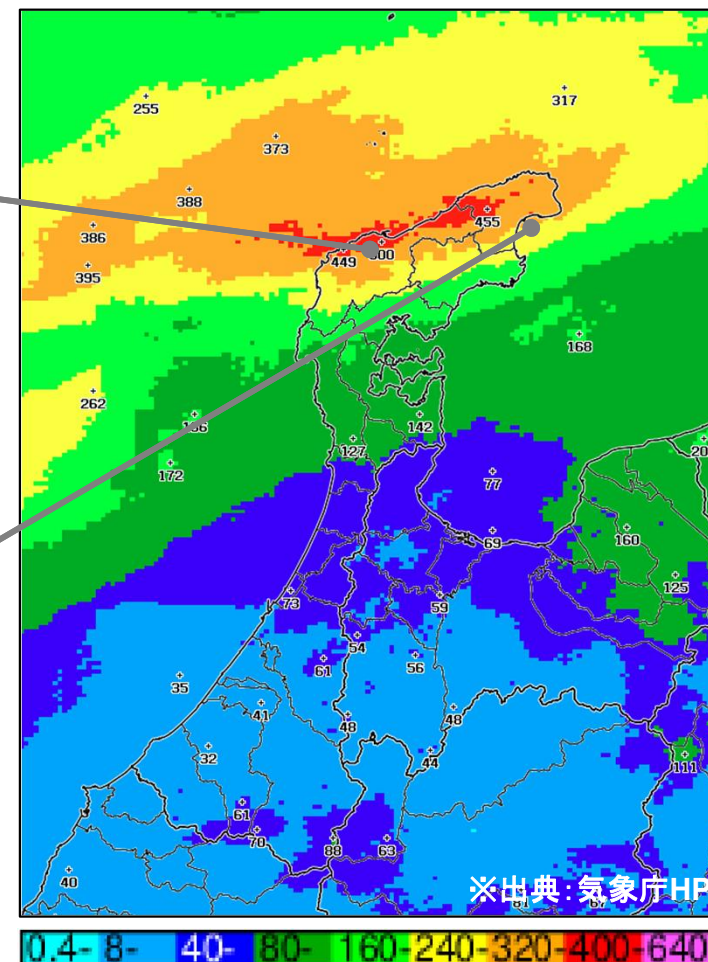
月最大24時間降水量
(過去最大値との比較)

地点	今回の豪雨		これまでの1位の値	
	mm	年月日 時分(まで)	mm	年月日
輪島(ワジマ)	412	2024/9/22 8:10 (R6.9.22)	220	2005/6/28 (H17.6.28)
珠洲(スズ)	315	2024/9/22 8:50 (R6.9.22)	195	1997/6/29 (H9.6.29)



日最大1時間降水量
(過去最大値との比較)

地点	今回の豪雨		これまでの1位の値	
	mm	年月日 時分(まで)	mm	年月日
輪島(ワジマ)	121	2024/9/21 9:22 (R6.9.21)	73.7	1936/9/15 (S11.9.15)
珠洲(スズ)	84.5	2024/9/21 10:07 (R6.9.21)	73	2007/8/22 (H19.8.22)

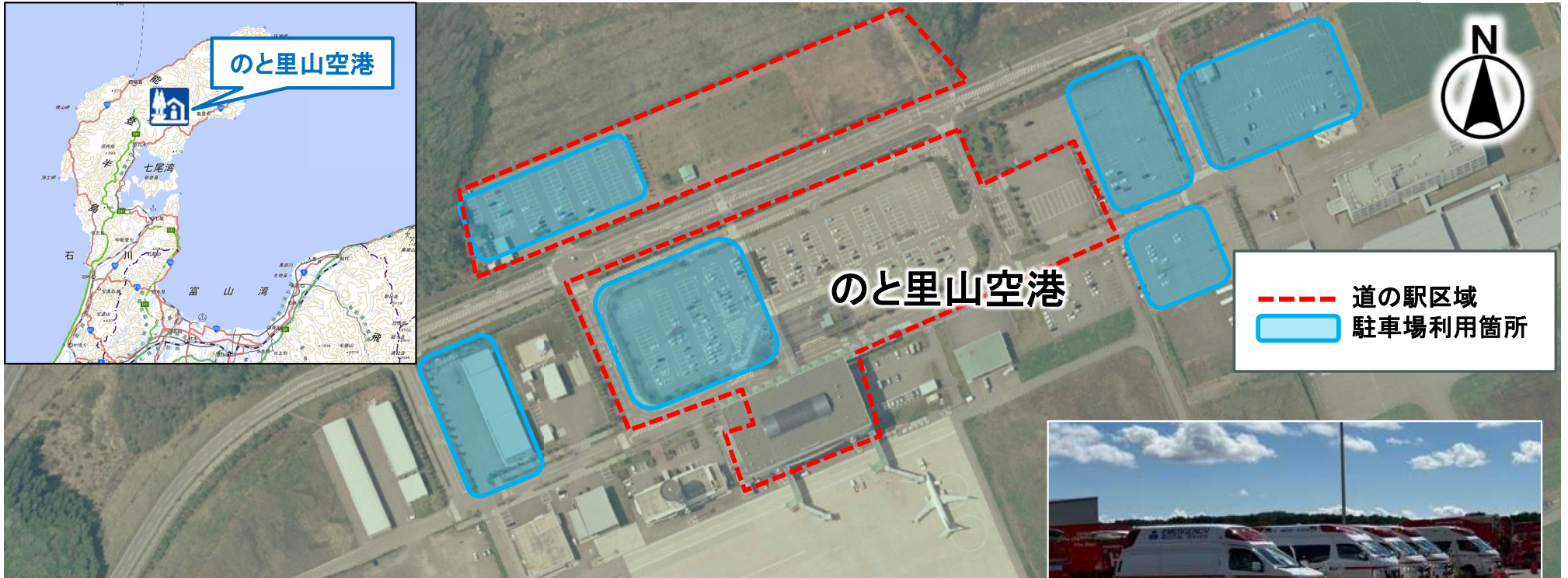


※出典: 気象庁HP

積算解析雨量分布図
(9月21日00時から9月23日24時)

令和6年奥能登豪雨における支援事例 ～防災道の駅「のと里山空港」～

- 消防や自衛隊が「道の駅」を含む空港内の駐車場を救助活動等の拠点として利用。
- 日最大で関係者約380名、関係車両約120台が利用し、救助活動等を支援した。



自衛隊利用状況



消防利用状況

令和6年奥能登豪雨における支援事例 ～防災道の駅「あらい」～

- 被災地への支援物資の一時集積場所として、防災道の駅「あらい」が物資輸送拠点の役割を担った。
- 支援物資は、新潟県の道の駅「クロステン十日町」の駅長が発起人となり、駅長同士のつながりで支援を呼びかけ、被災地である石川県珠洲市内の道の駅「狼煙」及び「すずなり」に運搬した。
- 能登半島地震の際の経験から、「水は小瓶が配布し易い」「紙皿や紙コップが便利」など、被災地ニーズを考慮した物資の提供を呼びかけた。



令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について【概要】

今回の特徴を踏まえた災害対応の方向性

【防災対策強化のための基本的な考え方】

- 大規模災害に総力戦で臨むための国民の防災意識の醸成
- 地域防災計画の見直し等による各種計画の実効性の向上
- 災害対応力の底上げに向けた各種制度やマニュアルの整備・習熟、研修、訓練の実施
- 災害対応の効率化・高度化に向けた防災DXの加速・新技術等の活用推進



【能登半島地震の特徴を踏まえた災害対応の方向性】

- 状況把握の困難性や孤立集落発生等の地理的特徴や社会的特性を踏まえた災害応急対応や応援体制の強化
- 高齢化地域における災害関連死防止のための避難生活環境の整備等の被災者支援の強化
- 甚大な被害やリソース不足を踏まえたNPOや民間企業等との連携の強化
- 将来の人口動態等の社会的特性を踏まえた事前防災や事前の復興準備、復旧・復興支援の推進

一般の災害における取組事例・課題、これらを踏まえた今後の災害対応の基本方針（主な「実施すべき取組」）

1. 人的・物的被害への対応

○ 住宅・建築物の耐震化の一層の推進や暫定的・緊急的な安全確保策の推進

住宅・建築物の耐震化の促進に向け、地方公共団体と連携し、補助・税制・融資による各種支援や普及啓発等を強力に実施すべき。

資力不足等で本格的な耐震改修等を行うことが困難な場合についても暫定的・緊急的な安全確保方策が講じられるよう取組を推進すべき。

- 液化化ハザードマップ作成を促進し、より実態に即したリスク情報を示すことによるリスクコミュニケーションの充実
- 既存の地震・津波観測施設の更新を含む全国の津波観測体制の強化
- 火災予防のための感震ブレーカーの普及推進や密集市街地の整備改善

○ 上下水道、通信、道路、港湾等のインフラ・ライフラインの強靱化・耐震化・早期復旧の推進

上下水道施設の被害状況の調査や復旧の支援活動を実施するに当たっては、プッシュ型での支援を実施すべく、国が全体調整を行うとともに、上下水道一体の支援体制を構築・充実すべき。

- 道路啓開とライフライン復旧作業の連携による復旧加速化に向けた平時からの関係者との連携確保

2. 国・地方公共団体等における災害応急対応

- 災害対応のポイントや留意事項等を整理した災害対応の手引きの作成及び実効性のある訓練・研修の充実

○ 孤立が想定される地区での関係機関が連携した訓練や受援計画に基づく訓練

災害時に交通通信等が途絶して孤立することが想定される地区については、孤立時の状況把握などについて、関係機関が連携して訓練を実施するよう努めるべき。受援計画について、職員への計画内容の周知や、受援計画に基づく訓練の実施等により、受援計画の実効性の確保に取り組むべき。

○ 政府の司令塔機能の強化、国による応援組織の充実・強化

(TEC-FORCE、MAFF-SAT、D-EST、通信体制、デジタル体制等)

事前防災の徹底に向け、内閣府防災担当の機能を予算・人員の両面で強化するとともに、防災庁を設置すべく準備を進める旨の政府方針に沿って、所要の取組を着実に進めるべき。

被災自治体への支援に大きな役割を果たした国による応援組織について、大規模災害に備えて、組織の充実・強化を進める必要があり、国による応援組織の機能の在り方について、職員の確保、外部人材の活用、民間団体との連携、処遇改善を含め、検討すべき。



危険箇所での被災状況調査

- 被災地学び支援派遣等枠組み（D-EST）等による子どもたちの学びの継続や学校の早期再開のための支援
- 応急対策職員派遣制度について、総括支援県・政令市の負担が大きかったこと等を踏まえ制度を改善
- 過酷な環境下での派遣職員の安全・継続的な支援のための寝袋、食料等の資機材や装備品の充実
- 災害時に国が迅速に「道の駅」を活用して災害支援を行うための仕組みの検討

3. 被災者支援

○ 避難生活を支援する地域のボランティア人材を育成するための仕組みや研修の充実

地域で避難所の運営・生活環境向上に取り組む「避難生活支援リーダー/サポーター研修」等の拡充を図るとともに、地域のボランティア人材を把握し、被災地とのマッチングに活用するデータベースを整備すべき。

避難所運営に関わる担い手と連携して地域の避難生活全般に関与する「避難生活支援コーディネーター」及び保健・医療・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言を行う「避難生活支援専門アドバイザー」の育成を図るべき。

○ 「場所（避難所）の支援」から「人（避難者等）の支援」へ考え方を転換し、在宅避難者・車中泊避難者等も含めて支援

○ 避難所開設時からパーティションや段ボールベッド等を設置するなど、避難所開設時に対応すべき事項を整理し、スフィア基準も十分に踏まえ指針やガイドラインに反映

- 学校の体育館への空調設備の設置や、トイレの洋式化、施設のバリアフリー化の推進

○ 避難所等において速やかな炊き出しを可能とするための

調理設備等の整備・備蓄の促進、提供体制の構築

避難所における温かい食事の提供のため、避難所や公民館・集会所等において速やかに炊き出しが可能となるよう、大型のガス設備や燃料をはじめ、調理に必要な設備一式やキッチンカー等の整備・備蓄や提供体制の構築を促すべき。



キッチンカー

○ 携帯・簡易トイレ等の備蓄、マンホールトイレの整備、仮設トイレ等の確保

自治体による、携帯トイレ等の備蓄、マンホールトイレ整備、仮設トイレ確保の協定締結等を促進すべき。公共工事で「快適トイレ」を標準化していくとともに、災害時に調達が容易にできる環境整備を図るべき。高速道路会社のトイレカーを引き続き活用するとともに、地方公共団体等におけるトイレトレーラー・トイレカーの導入等を検討すべき。

○ 入浴支援を行うNPO等との協定締結等による入浴機会確保や

防災井戸等による生活用水の確保のための平時からの準備

災害時に使用できるシャワー設備・入浴設備の確保、入浴支援を行うNPOや民間温浴施設等の関係事業者との協定の締結、避難所と入浴施設間の送迎のためのマイクロバス等の確保など、入浴機会が確保されるよう平時からの準備を促すべき。



トイレカー

○ 被災地のニーズに応じてキッチンカーやトイレトレーラー、ランドリーカー等を迅速に提供するための登録制度の検討

移動型車両・コンテナ等が迅速な支援の実施に効果的だったことを踏まえ、災害時に活用可能なキッチンカー、トイレトレーラー、トイレカー、ランドリーカー、トレーラーハウス等について、平時からあらかじめ登録し、被災地のニーズに応じて迅速に提供するための仕組みを検討すべき。



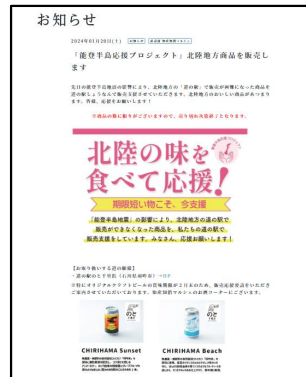
仮設風呂

- 能登半島地震において、県境を越えた「道の駅」どうしの広域的な支援が見られたが、駅長どうしの属人的な協力により行われた支援であり仕組み化が必要
- 「防災道の駅」についても追加選定を進め、県境を越えるような、より広域の防災拠点としての役割を持たせていく方針
- これらを踏まえ、今後災害時の支援活動を円滑にするため、平時より「防災道の駅」間のネットワークを構築する。

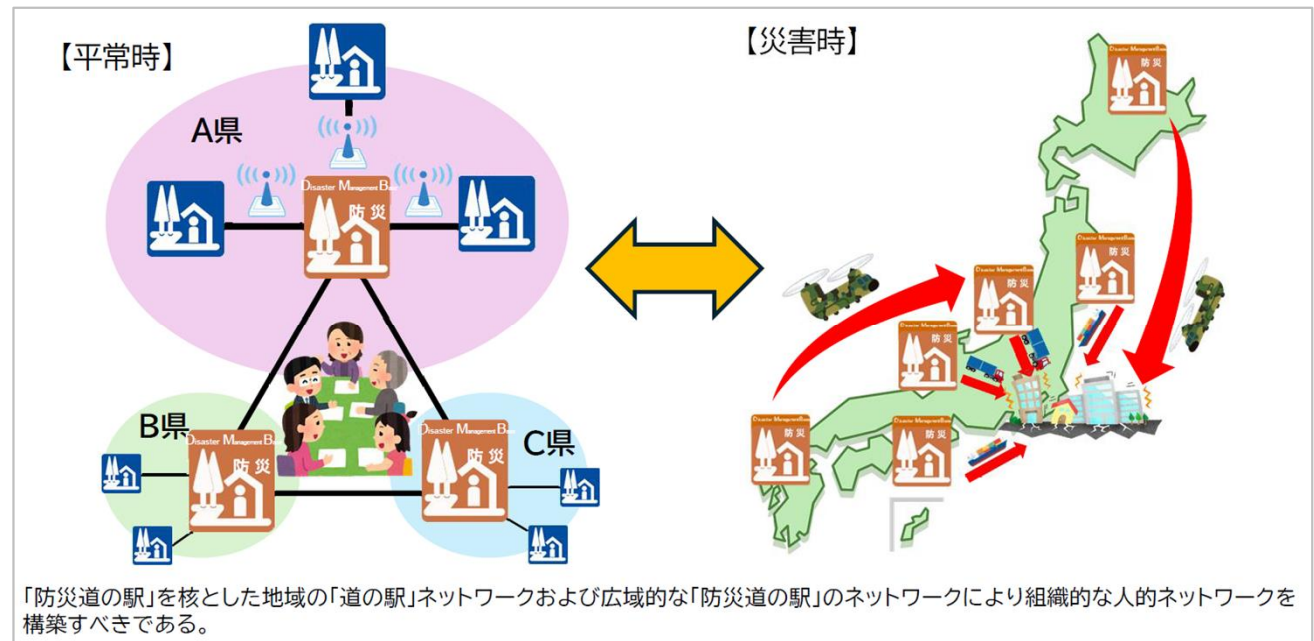
被災地支援として取寄販売を実施



(道の駅「みえ」大分県豊後大野市)



(道の駅「しょうなん」千葉県柏市)



『「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性』の記載

- 全国版及び地方ブロック版の「防災道の駅」ネットワークを構築することにより、「防災道の駅」の駅長や運営管理の責任者間の関係を強化する。
- 災害時に現場の責任者(駅長等)の判断と連携により機動的に対応することで、広域的な支援の実効性を高める。

全国版

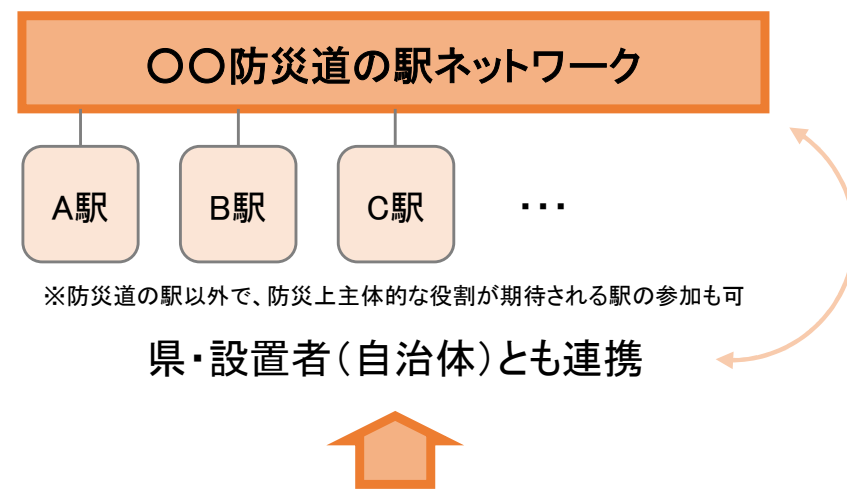
全国道の駅連絡会の呼びかけにより『全国「防災道の駅」ネットワーク』を設置



本省のサポート
(ネットワークの構築/知見の共有/災害情報の提供等)

地方ブロック版

地方ブロック道の駅連絡会(または地方整備局)の呼びかけにより『地方ブロック「防災道の駅」ネットワーク』を設置



※防災道の駅以外で、防災上主体的な役割が期待される駅の参加も可

県・設置者(自治体)とも連携

地方整備局のサポート
(ネットワークの構築/知見の共有/災害情報の提供等)

多様な主体との連携

日本風景街道との連携

- 日本風景街道と連携し、令和6年4月に、『道の駅』健活プロジェクトの一環として、健康増進イベント(ウォーキングイベント)を開催
- 「道の駅」を拠点とした地域住民等との協働を通して、地域住民の生活拠点としての重要な役割を果たす。
- 令和6年11月には、奥能登絶景海道の復興を支援するため、全国の「道の駅」においてチャリティーカレンダーの販売を開始

健康増進イベントの開催



道の駅「宇津ノ谷峠」(静岡県静岡市)



東海道「駿河2峠6宿風景街道」

奥能登絶景海道復興支援カレンダーの販売

能登復興支援カレンダー
“あなたの心を届けよう”
発売中!!
1冊1,600円(税込)
創価部1,800円

奥能登絶景海道カレンダー
2025

2025奥能登絶景海道復興支援カレンダーを発売いたします。
令和6年1月1日に発生した地震による被害に苦しむ被災者に対する復興支援のチャリティーカレンダーです。
1冊1,600円(税込)1,800円です。500円を奥能登絶景海道に寄付します。

奥能登絶景海道カレンダー制作実行委員会
【お問い合わせ】
〒110-0074 東京都千代田区千代田3-10-10 PMARC219F
FAX: 03-3221-5932 mail: info@okunoto2025@gmail.com

販売サイトより
ご購入いただけます



奥能登絶景海道

○ (株)ゼンリンと連携し、フリーペーパーの中でバスタ新宿から能登半島の「道の駅」への旅行を促進する記事を掲載

フリーペーパー「道の駅」旅案内
(北陸版R6秋冬号)



バス旅でバスタ新宿へ。北陸へ!

早朝、夜間を利用すれば時間を有効に使える「バス旅」。
交通費や宿泊費を抑えて思い出を増やせるのも魅力です。
北陸・東京間は「バスタ新宿」利用の直行便が便利。「バスタ新宿」は
復興に貢献する北陸の「道の駅」を、バス旅で応援します。
そして見どころたっぷりの「バスタ新宿」を目指しましょう!

いま、「バスタ新宿」が面白い

バスタ新宿は、JR新宿駅南改札から徒歩2分。
新宿駅周辺に分散していた高速バス乗り場と、タクシー乗り場や歩行者空間などと
JR施設を一体的に集約させた、大規模な交通ターミナルです。
高速バス発着数(1日約1200便)、現在約300都市に就行し、利用者数(1日約2.1万人)は日本最大級、16本の線路と8つのホーム上空に構築された人工地盤などインフラとしての魅力もあり、2024年4月には「インフラツーリズム魅力増進プロジェクト(国土交通省)」のモデル地区に選定されました。

バスタに行ったらバスタを見てみよう!!

バスタ新宿には、高速バス発着駅としての機能だけでなく構造物としての見どころがたっぷりあります。
例えば、約10年をかけて延べ50万人が構築作業にかかわった人工地盤は約1.47ha、161本もの柱を支えられ、基礎杭は線路と線路の間隔を測って深さ約20mの支持層まで挿入されています。老朽化した種穀機の架け替えには、線路の切り替えを行いながら作業場が構築されたという、施工工程をひも解くのも面白そうです。
現在、バスタ新宿では見学ツアーの企画が進行中、知られていない構造やしくみなどを探検できるかもしれません。お楽しみに!

インフラツーリズムでバスタの魅力を深めよう!

促進20号世界規模最大級
新たな路線の増設
最新の設備
バス旅の魅力を深めよう!

現在の能登の「道の駅」を見てみよう

2024年1月1日に起こった能登半島地震の傷あとを深く、観光の拠点であった「道の駅」についても、8月時点で全駅の再オープンには至っていません。しかし、休業中の道の駅の敷地が復旧工事従事者の宿泊場所や交流活動の拠点となったり、駐車場がヘリポートとして利用されたり、地域の復興のためにさまざまな形で、活用されています。
そんな頑張っている能登の「道の駅」の現在を見てみましょう。
なお、道路状況、利用可能な「道の駅」の情報は以下ホームページで確認していただき、お気をつけてください。

能登地方でも被害の大きかった2市・2町から、復旧しオープンしている道の駅の魅力を紹介します

- 1 輪島(輪島市)** 道の駅「輪島」は、2024年1月1日に再開し、観光客の受け皿として活躍中。また、地域の復興に貢献しています。
- 2 すずなり(珠洲市)** 道の駅「すずなり」は、2024年1月1日に再開し、観光客の受け皿として活躍中。また、地域の復興に貢献しています。
- 3 あなみず(穴水町)** 道の駅「あなみず」は、2024年1月1日に再開し、観光客の受け皿として活躍中。また、地域の復興に貢献しています。
- 4 桜峠(能登町)** 道の駅「桜峠」は、2024年1月1日に再開し、観光客の受け皿として活躍中。また、地域の復興に貢献しています。

バスタ新宿⇄北陸方面路線

- 富山県 バスタ新宿⇄富山・高岡方面 上下20便/日
- 石川県 バスタ新宿⇄金沢・七尾方面 上下18便/日
- 福井県 バスタ新宿⇄彦根方面 上下2便/日

北陸方面行き路線一覧

バスタ新宿ホームページ